

## 12 スペイン宮廷のヴェサリウス

泉 彪之助

ヴェサリウスは、『フアブリカ』の出版後、神聖ローマ皇帝カール五世（スペイン王としてカルロス一世を兼ねる。以下カール五世。以下皇帝は、神聖ローマ皇帝を指す）と、その子スペイン王フェリペ二世の侍医となった。

演者は、この問題に関心を持ち、調査したので報告する。

ヴェサリウスは、一五一四年、ブリュッセルで生まれた。ヴェサリウスの家は代々医師の家柄で、高祖父ペーテルはハプスブルク家出身の皇帝フリードリヒ三世の侍医、曾祖父ヨハネスはブルゴーニュ公国のシャルル突進公とその娘マリーの侍医であった。マリーは、フリードリヒ三世の子マキシミリアンの妃となり、この結婚によってハプスブルク家はこの地方の支配権を得た。マキシミリアンは後に皇帝マキシミリアン一世となり、ヨハネ

スはマキシミリアン一世の侍医ともなった。ヴェサリウスの祖父エヴェラルドはマキシミリアンの娘マルガレーテとマキシミリアン自身の侍医、父アンドリエスはマキシミリアン一世とその孫カール五世の宮廷薬剤師となった。

マキシミリアン一世の子フィリップ美公が、スペイン王位の継承者であるフアナ王女と結婚し、ハプスブルク家とスペイン王室との関係が生まれた。カール五世は、この二人の子である。しかしフィリップ美公が若くして亡くなり、フアナが精神疾患にかかったため、神聖ローマ皇帝位とスペイン王位はカール五世に伝えられた。

カール五世はフランドルのゲント生まれで、スペイン王になった時、スペイン語が話せず、スペイン宮廷ヘフランドル宮廷の廷臣をたくさん連れて行ったが、ヴェサリウスの父アンドリエスはその一人であった。

一五三八年、ヴェサリウスは、『解剖学図譜』を出版し、アンドリエスは、カール五世にこの『解剖学図譜』を見せ、ヴェサリウスとカール五世の縁ができた。

『フアブリカ』の序文はカール五世への献呈の辞だが、

終わりの方に、「この出版がもしなにか問題を起こすことがあったら、庇護をお願いする」との文面がある。ヴェサリウスは、『ファブリカ』の出版後まもなくスペイン宮廷に入っているが、カール五世がヴェサリウスを庇護したものではないだろうか。

このころ、ヴェサリウスはフィレンツェのコジモ・デイ・メディチによってピサの大学に招聘されているが、辞退している。

スペイン宮廷において、ヴェサリウスは臨床家として優れた能力を示した。宮廷におけるヴェサリウスの業績として、フランス王アンリ二世の事故のとき、派遣されてアンブローズ・パレと共に治療・解剖にあたったこと、フェリペ二世の皇太子ドン・カルロスを治療したことが知られているが、これらはスペイン宮廷のヴェサリウスに対する信頼を示すものであろう。

カール五世は、退位の年、一五六六年にヴェサリウスを宮中伯に列した。これも、カール五世のヴェサリウスに対する評価を示すものと思われる。

ヴェサリウスが、エルサレム巡礼に出た動機は不明だ

が、カール五世の宮廷に比べ、やや閉鎖的なフェリペ二世の宮廷がその原因ではなかったか。

わが天正遣欧使節を引見したのはフェリペ二世だが、ヴェサリウスがスペイン宮廷を去ってずっと後のことで、天正遣欧使節はヴェサリウスに会っていない。

(介護老人保健施設 陽翠の里)